

CMI 株式会社

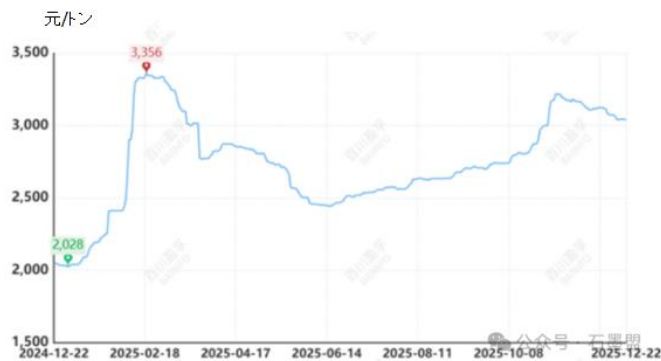
横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

中国石油コークス市場 2025 年の動向と 2026 年の予測

1. 価格

2025 年の中国石油コークス市場は変動が大きく、需給バランスの動きに伴い価格は激しく変動した。価格推移は、図 1 に示すように上昇と下落を繰り返す「M 字型」のトレンドである。



出典：石墨盟

図 1. 石油コークスの平均価格の推移（2025 年）

上半期は供給が需要を下回ったことで価格が高騰し、石油コークスの輸入量が大幅に増加した。その後、輸入量により需給が逆転したため価格は下落に転じたが、下半期には需要の緩やかな回復と製油所の保守点検による減産が重なり、価格は段階的に値上がりした。

表 1. 月別石油コークスの平均価格（2024～2025 年）

月	2025 年		2024 年		同比 (%)
	人民幣 (元/t)	日本円 (万円/t)	人民幣 (元/t)	日本円 (万円/t)	
1 月	2,186	4.96	1,830	4.15	19.42
2 月	3,068	6.96	1,849	4.19	65.95
3 月	3,064	6.95	1,892	4.29	62.00
4 月	2,845	6.45	1,929	4.37	47.46
5 月	2,680	6.08	1,901	4.31	40.99
6 月	2,471	5.60	1,889	4.28	30.83
7 月	2,549	5.78	1,829	4.15	39.38
8 月	2,620	5.94	1,766	4.01	48.32
9 月	2,701	6.13	1,700	3.86	58.90
10 月	2,823	6.40	1,729	3.92	63.30
11 月	3,155	7.16	1,808	4.10	74.55
12 月	3,083	6.99	1,991	4.52	54.83
年間平均	2,770	6.28	1,843	4.18	50.35

注 1：換算レート：1 元＝22.68 円。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

表 1 が示す通り、2025 年の石油コークス市場は前年を大幅に上回る高水準で推移した。年間平均価格は 2,770 元/トン（約 6.28 万円/トン）に達し、前年の 1,843 元/トン（約 4.18 万円/トン）と比較して 50.35%の上昇となった。また、表 1 から顕著な「M 字型」のトレンドが確認でき、2,000 元/トン（約 4.54 万円/トン）を下回る水準で安定していた 2024 年に対し、2025 年は年間を通じて価格帯が大きく切り上がり、需給は供給に追いつかないとの市場見解であった。

市場全体の高騰を踏まえ、製品別の詳細な価格動向を見ると、以下の通りに推移した。（以下、換算レート：1 元=22.68 円とし、硫黄を S、バナジウムを V と表記する）

- 低硫黄分コークス（S 含有率 1.0%未満）：
価格帯は 2,920～6,000 元/トン（約 6.62～13.61 万円/トン）。
- 中硫黄分コークス（S 含有率 3.0%前後、V 含有率 400 ppm 未満）：
2,150～3,760 元/トン（約 4.88～8.53 万円/トン）。
- 高硫黄分コークス（S 含有率 3.5%前後、V 含有率 400ppm 未満）：
1,350～2,973 元/トン（約 3.06～6.74 万円/トン）。
- 高硫黄分コークス（S 含有率 5.0%前後、V 含有率 600ppm 超過）：
1,103～2,530 元/トン（約 2.50～5.74 万円/トン）
中・高硫黄分石油コークスの価格変動幅は 70～1,130 元/トン（約 0.16～2.56 万円/トン）。

2. 供給

2025 年、全国の製油所で保守点検による操業停止が相次いだ。またディレードコーキング装置の新規稼働がなかった結果、石油コークスの総生産量は 3,002.59 万トンと、前年より 6.49%減少した。操業停止以外にも、一部の製油所が船舶燃料の増産や原料調整にシフトしたことでコークスの減産を余儀なくされ、特に低硫黄コークスの需給が逼迫した。

中国石油化工集团公司（シノペック）が一部の生産を高硫黄から中硫黄コークスに切り替えた影響から、中硫黄コークスの供給量が増加した一方、高硫黄コークスは減少した。

輸入面では 1～11 月の輸入量は 1,399.16 万トンで、前年同期比で 12.69%増加した。年間輸入量は 1,490 万トンの見込みで、前年比 11.2 ポイント増と大幅な伸びを見せている。

3. 需要

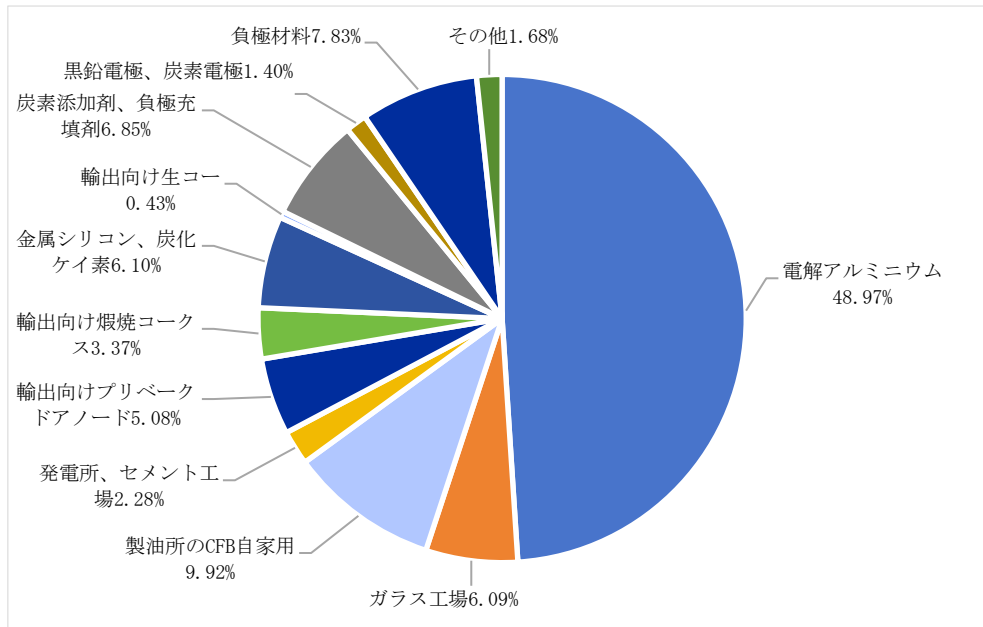
分野別に見ると、炭素分野の需要は微増したものの、燃料分野の需要が減少した結果、2025 年の総需要量は減少した。スポンジコークス（海綿状コークス）の市場需要量は 4,595 万トンと見込まれており、前年比で 3.03%の減少となる見通しである。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

主要な需要分野の動向は以下の通りである。



出典： 石墨盟

図 2. 石油コークスの分野別需要割合（2025 年）

➤ 電解アルミニウム分野：

石油コークスの最大の需要先は電解アルミニウム産業である。アルミニウム価格は 19,530～24,150 元/トン（約 44.29～54.77 万円/トン）で推移し、企業は高い稼働率を維持している。

➤ 負極材料分野：

上半期は設備稼働率が低迷したが、下半期は需要期に入りトップ企業がフル稼働しはじめたため、業界全体の稼働率が向上した。第 4 四半期の持続的な需要拡大に伴い、負極材料企業の生産計画が増え、石油コークス市場を支える主要な牽引役となった。

➤ その他の炭素分野（黒鉛電極、金属シリコン、炭化ケイ素）：

黒鉛電極分野は安定生産を維持し、同分野向け需要は横這いで推移した。9 月以降は金属シリコン向け電気炉の稼働増により、石油コークスの需要が増加した一方、炭化ケイ素分野では一部の企業は生産停止・減産により、石油コークスの需要は限定的なものに留まった。

4. 予測

2026 年の石油コークスの市場は、生産量・需要量ともに増加に転じ、市場価格も一定レベルに維持すると予測される。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区鶴見中央2-12-30-105

TEL: 045-717-8575 FAX: 045-717~8683

製品別の予測価格帯は以下の通りである。

- 負極用・低硫黄分コークス (S0.5%前後) : 3,800~5,000 円/トン (約 8.62~11.34 万円/t)
- 中硫黄分コークス (S3.0%未満) : 2,500~4,500 円/トン (約 5.67~10.21 万円/t)
- 高硫黄分コークス (S5.0%前後) : 1,300~2,000 円/トン (約 2.95~4.54 万円/t)

2026 年の需要面においては、負極材料の炭素材等の下流産業全体の需要が前年比 1.63%増加すると見込まれている。特にアルミニウム用炭素業界での新規生産能力の稼働に加え、エネルギー貯蔵及び動力電池向け負極材料の受注が持続的に拡大することで、石油コークスの需要は押し上げられると予測される。黒鉛電極や金属シリコン分野でも小幅な需要増加が見込まれる一方、炭化ケイ素やガラス市場の需要は減少に転じる見通しである。また、南部地域の燃料市場における高硫黄分コークス燃料の需要も、引き続き軟調に推移する見通しである。

供給面では、計 3 基（合計 570 万トン/年）のディレードコーキング装置が新規稼働の予定で、生産能力が約 3,151 万トンである。大手国有製油所では、低硫黄分コークスの供給は安定的に推移する一方、中硫黄分コークスの増産が進み、対照的に高硫黄・バナジウム製品の生産は縮小する方向である。他方、地方製油所では採算性を重視した生産調整により製品指標が頻繁に変化しており、低バナジウム製品の供給が限られる一方、高バナジウム製品の供給量が多くなると予想される。

情報源：石墨盟